

平成 29 年度 市 民 対 話 集 会

「市長と懇談～大式について語る～」

日 時：平成 29 年 11 月 21 日(火)

午前 10 時から

場 所：竜王南部公民館

次 第

1 開 会

2 竜王南部公民館推進協議会 会長あいさつ

3 懇 話 会

「市長と懇談～大式について語る～」

4 そ の 他

5 閉 会

主催：竜王南部公民館推進協議会

後援：竜王南部公民館ふれあい講座

◇山県大貳

□略歴

- ・享保10年(1725) 甲斐国篠原村(甲斐市篠原)に生まれる。
- ・寛保2年(1742) 京都へ遊学。医術のほかに儒学も修める。
- ・宝暦6年(1756) 江戸へ出て、幕府若年寄の大岡忠光に仕える。忠光の死後は大岡家を辞し、江戸八丁堀長沢町に、私塾「柳荘」を開き、儒学や医学、兵学、皇道学、天文学、歴史学、地理、歴史、音韻、数学、和算、経済学、武術、詩文、楽器演奏などを教える。
- ・明和3年(1766) 上野國小幡藩家老吉田玄蕃など多くの小幡藩士を弟子としていたことから小幡藩の内紛に巻き込まれ、謀反の疑いがあると幕府に密告され逮捕。
- ・明和4年(1767) 門弟の藤井右門とともに処刑。享年43歳(明和事件)
- ・明治13年(1880) 明治天皇行幸の際、県令(知事)に大貳の功績を称える祭典執行を命じ祭祀料貳拾円をご下賜される。
- ・明治24年(1891) 大貳の尊王論者・学者としての遺業に正四位(勲三等相当)追贈。
- ・大正10年(1921) 山県神社創建 学者として再評価、学問の神として尊敬を集める。

□思想

柳子新論に代表されるように「君臣式なく権政一に帰す」として、単に体制を批判するものではなく、政治というものは、常に人々の幸せを心から願う者が行わなければならないという考え方をもっていた。

小さくは市・町・村、大きくは国家・世界を誰がおさめようと真に万民のしあわせを希求する為政者でなければならない、単に権力者のたらい回し、体制派から反体制派へという権力の移行、イデオロギーの変革だけでは、人々の幸せはありえないと説いたといわれている。

明治維新の遙か以前、徳川隆盛の時代にこの思想を説いたことは画期的であると同時に大変危険なものだったが、大貳の思想は、幕末の吉田松陰などに多大な影響を与え、のちの明治維新の礎となったといわれている。

□主な著作

- ・柳子新論(正名、得一、人文、大体、文武、天民、編民、勸士、安民、守業、通貨、利害、富疆の13篇からなる思想書) ・兵叢・行兵條(兵学) ・医事撥乱(医学)
- ・発音略(音韻額:漢字の音に関する学問) ・天経発蒙(天文暦学)
- ・琴学發揮(琴に関する書物) ・牙壽譜(和算:方程式、日本独自の計算法)

□柳荘大貳学問まつり

社会教育委員を中心とした勉強会で大貳の業績が再評価され、昭和61年(1986)勉強会参加者の発案で、「郷土の生んだ大学者山県大貳の遺徳を顕彰し、町民のふれあい、協調と融和に満ちた郷土づくりに資する」という趣旨により「柳荘大貳学問まつり」が立ち上げられた。